

科目名称：	音楽表現指導法実習 I	
担当者名：	朝倉 喜裕、水上 和子、上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
音楽表現実習（インターンシップ）として保育・幼児教育の現場観察と現場指導の下で、指導案を基に表現への練習を重ねつつ、音楽活用の現状を知り、新たな表現を模索し、表現の実践を試みる。基本的には履修者を1講時と2講時の2つグループに分割し、音楽表現指導法 I と入れ替えにして行う。現場訪問を2講時中心に行うため、週によって1・2講時を入れ替え調整を図る。主な訪問園は、附属西南幼稚園と蝶屋こども園等近隣の保育現場を中心に展開する。		
授業の達成目標・到達目標		
自身の力での確かな指導案を仕上げる事が出来ることと、それに沿って十分な表現を展開する技能の向上を目指す。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（水上）附属幼稚園園長補佐	《経験年数1》 3年
	《内容2》（水上）附属西南幼稚園園長	《経験年数2》 1年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
受講態度	意欲的、自発的でありとても熱心である。	指導をうけた事を吸収しようとする。	アドバイスをすると前向きにとらえる事が出来る。	欠席せず、受講の態度の改善を必要とする。
表現意欲	現場で、即実践できる工夫がみられる。	アピールしようとしている。	やや積極的である。	積極的になるよう努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 授業の内容と予定の確認	シラバスを熟読しておく	30分
第2回 各年齢に合わせた音楽表現活動についてのディスカッション	保育実践対象園の確認と事前情報収集をしておく	30分
第3回 各年齢に合わせた音楽表現活動についてのディスカッション	保育実践演習の検討と指導案研究をしておく	40分
第4回 外部講師によるパネルシアター講習	自身制作のパネルシアターのチェックをしておく	30分
第5回 各年齢に合わせた音楽表現活動についてのグループワーク	現場訪問の準備と質問内容の整理をしておく	40分
第6回 各年齢に合わせた音楽表現活動についてのグループワーク	現場訪問の準備と質問内容の整理をしておく	40分
第7回 各年齢に合わせた音楽表現活動についての実践演習(インターンシップ)	現場訪問の準備と質問内容の整理をしておく	40分
第8回 各年齢に合わせた音楽表現活動についての実践演習(インターンシップ)	現場実践演習の反省のまとめを提出する準備をしておく	60分
第9回 保育現場における音楽表現実践演習(インターンシップ)	現場訪問の準備と質問内容の整理をしておく	60分
第10回 保育現場における音楽表現実践演習(インターンシップ)	現場訪問の準備と質問内容の整理をしておく	60分
第11回 保育現場における音楽表現実践演習(インターンシップ)	現場実践演習の反省のまとめを提出する準備をしておく	60分
第12回 子ども園見学訪問(フィールドワーク)	見学する子ども園の事前情報を確認しておく	40分
第13回 子ども園見学訪問(フィールドワーク)	見学する子ども園の事前情報を確認しておく	40分
第14回 前期現場実践演習と見学訪問の意見交換会とまとめ	訪問データやまとめの整理をしておく	60分
第15回 見学訪問意見交換会とまとめ	訪問データやまとめの整理をしておく	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの保育実践演習の内容研究と保育実践指導案をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
保育現場実践演習の指導内容と指導案及び見学訪問のまとめにて評価 実践演習40% 指導案と見学のまとめ60%

課題に対するフィードバック

指導案及びまとめはチェックして返却。現場での感想及び反省会にて内容の指導を行う

教科書・参考書

学科仕様の指導案用紙を使用する。